

令和元年度第5回協働支援会議

令和元年6月25日（火）午後2時

新宿区役所本庁舎6階第4委員会室

出席者：藤井委員、関口委員、平野委員、土屋委員、石橋委員、松井委員、伊藤委員、
長谷川委員、山田委員、平井委員、高橋委員

事務局：地域コミュニティ課長、大庭主査、武井主任、丹野主任

藤井座長 皆さん、どうもお忙しいところご参集いただきましてありがとうございます。

それでは、皆様のお手元に議事の次第が、そして資料が配付されていると思います。それを参照していただきながら議事を進めさせていただきたいと思います。

まず定足数の確認でございます。きょうは協働事業評価会となりますので、支援会議の委員としては通例に加わりまして総合政策部長の平井さんと、そして健康部長の高橋さんにご参加していただくと、定足数11名ということに委員数はなります。定足数を満たしていると、今、土屋委員がちょっとおくれられるということですが。

それでは、定足数を満たしておりますので第5回の協働支援会議を開催いたします。なお、議事録作成のため、いつものことですが、発言の前にはお名前をお願いいたします。

では、事務局から資料説明をお願いいたします。

事務局 それでは、事務局より資料の説明をさせていただきます。本日なのですけれども、皆様のお手元にこちらのクリップどめの資料がございますでしょうか。あと、こちらのオレンジのファイルです。こちらのほうは本日お持ちいただけましたでしょうか。ご確認いただければと思います。

クリップどめの資料になりますけれども、まず1枚目が次第となっております。

めくっていただきましてこちらは、赤の文字で7月5日までと書いてあるこちらの資料が資料1、協働事業の評価書となります。こちらなのですけれども、下にコメント欄もついてございますので、本日のヒアリングの中でメモを書いていただくとか、そういった形でご利用いただければと思います。

正式な書式に関しましてはこちらの会議終了後、電子メールのほうで皆様に書式を送らせていただきますので、そちらのほうに正式なご意見等はお書きいただきまして7月5日、来週の金曜日までに事務局までご送付いただければと思っております。お手数をおかけし

ますがよろしくお願ひいたします。

続きまして、2枚目が協働事業の評価基準表になっております。

3枚目、資料3が今年度の協働事業評価のスケジュールでございます。本日のところが6月25日ということで、6月の最後のところに赤くなっております。今後の流れがこちらのほうに記載をされております。

最後に、資料4として支援会議の今回の委員の方々の名簿でございます。このまま名簿順に本日の委員のご紹介をさせていただきたいと思ひます。

まずは藤井座長でございます。

続きまして、関口委員になります。そして平野委員。土屋委員が少しおくれていらっしゃるのて後ほどとさせていただきますと思ひます。続きまして、石橋委員、松井委員、そして伊藤委員、あと長谷川委員。ちょっと名簿と順番が変わるのですけれども、総合政策部の平井部長、健康部の高橋部長。最後に、地域振興部の山田部長というこちらのメンバーで本日の会議は行ひ形となっております。

では、事務局からは以上でございます。

藤井座長 それでは、皆さんお手元に配付されています資料に不足はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

今、事務局から資料説明があつたのですが、特にといいますか、資料1の事業評価書についてはここに写しが添えられているのですが、資料として添えられているのですが、下にそれぞれ5ページまで、それぞれコメント欄が今回の事業評価の参照をしていただければということです。最終的には送られてくる電子版に点数、コメントを記入していただき、7月5日までにメールで事務局までご提出をいただくということが、これが今確認、日にちが出た確認事項です。

それでは、引き続き事務局から進行順序について説明してください。

事務局 それでは、本日の進行順序について説明をさせていただきます。本日の評価なのですけれども、まず事業の概要及び実施状況について、提案団体の方々から10分程度で説明をしていただきます。その後に事業課のほうで補足があれば補足をしていただくという形となっております。その後に委員から事業課及び提案団体に対して質疑を行っております。質疑に際しましては、参考として先ほど配らせていただきました評価基準表なども参考にさせていただいて質疑していただければと思ひます。

その質疑、ヒアリングのお時間なのですけれども、本日は30分を予定しております。

その後、委員、事業課、そして団体様の三者による意見交換の時間を本日は25分という形でとらせていただいております。ヒアリングに関してなのですけれども、なるべく多くの委員の方からご発言やご質問をしていただきたいと思いますので、およそ目安としてなのですが、3分程度を目安に質問等をしていただければと思っております。

ヒアリングと意見交換終了後、事業課、団体が退出しますので、その後委員の間での共通認識を保つために委員間の意見交換をさせていただきます。

本日のヒアリングですが、ヒアリングに関しては公開という形になっており、一般の区民の方が見学にいらっしゃる場合もございますのでご了承いただければと思っております。進め方に関しては以上になります。

藤井座長 今、事務局からの説明をしていただいたわけですが、幾つか改めてご留意いただきたい点があると思います。まず本日の事業概要説明提案団体はメディカルケア協会です。式次第のところを書いてありますが、提案団体がまず10分程度で事業の概要、実施状況について説明される。そして、きょう事業課として来ていただいているのが健康部。健康部から補足内容があれば提案していただく。それから、質疑があるということです。これについては資料2の協働事業評価基準を参考にして質疑をしてくださいということですが、ヒアリングの時間と意見交換の時間、それぞれ時間が分かれています。区別がちょっと難しいかもしれませんが、ヒアリングはまず時間が30分。ヒアリングをその後、委員、事業課、団体の三者による意見交換、これが25分ということです。ヒアリング30分の間にお一人当たり順不同。これはさっきも言いましたが挙手制になりますが、お一人当たり3分程度を目安にご発言をお願いしたいと思います。

それでヒアリングと意見交換ですが、改めてですがヒアリングについては不明なところ、わからないところを質問して確認していただく。まず説明10分で、その後の30分のヒアリングでは説明で不明なところがあったところ、わからないところがあればそれについて質問し確認、事実確認をしていただく。

その後25分の委員、事業課、団体の三者での意見交換については、こうしてほしいという要望やアドバイスなどをしていただく、そういうイメージになろうかと思います。また、説明10分、ヒアリング30分、意見交換25分、それぞれ時間が参りましたら私のほうからアナウンスをいたします。

それでは、まずヒアリングを始めたいと思います。最初の事業の団体と所管課の入室、そしてやりたいと思います。

(特定非営利活動法人メディカルケア協会・健康づくり課入室)

藤井座長 どうも。それでは、これからヒアリングを始めます。最初に事務局から進行順序を改めてご説明願います。

事務局 それでは、本日の進行順序について再度ご説明をさせていただきます。まずなのですけれども、これから10分間提案団体のほうで事業の概要、実施状況について説明をしていただきます。それが終わった後に事業課のほうで補足があれば補足をしていただければと思います。その次にヒアリングとして委員から事業課、もしくは提案団体に対して質疑を行います。こちらの時間は大体30分を予定しております。そのヒアリング終了後なのですが、委員、事業課、団体の三者間での意見交換の時間をとりたいと思っております。こちらの時間を25分というふうに考えております。

藤井座長 それでは、実施団体から事業説明をお願いいたします。所管課は補足がありましたら発言してください。

それでは、まずどうぞ、事業説明をお願いします、10分間。

メディカルケア協会 メディカルケア協会の小野でございます。本日はどうぞよろしくをお願いいたします。

先に団体の組織について簡単にご紹介させていただきます。メディカルケア協会の本部は山梨県にあります。山梨県は宝石の一大産地で、理事長は宝石を生業としており、日本ジュエリー協会の会長や、山梨県の中小企業団体中央会の会長を歴任しています。また役員が兼務するグループ内の医療法人、社会福祉法人などでは、リハビリ病院や特養、それからケアハウスなどを運営しております。

東京事務所では主に先進的な取り組みやモデル事業の実施、人材育成などの社会活動を行っておりまして、新宿区との本事業もそうした活動の一つになります。

では、本事業の概要と現在に至るまでの実施状況について説明させていただきます。本事業は人間が生きる上で欠かすことができない、食べたり飲み込んだりする機能、「食べる力」の維持向上に日常的に取り組むことの大切さを区民に伝えていくとともに、区民自身が自主的かつ継続的に機能の維持向上に取り組める場をつくり、高リスク者の早期発見や周囲の気づきにつながる正しい知識や予防策なども身につくよう普及啓発していく事業です。

そして、高齢者自身が日常生活の中で習慣化して取り組むことで、加齢に伴う健康課題

であります、誤嚥性肺炎や低栄養、脱水、窒息などの予防や高齢者のQOL、健康寿命の延伸にも貢献していくものです。事業を効果的に進めるためにまず重要なことは、地域の活動の担い手となるごっくんリーダーを育成すること。高齢者が楽しく続けることができる嚥下体操を開発することでした。

そこで1年目はごっくんリーダーが能動的、継続的に活動していくための基盤整備として、会食会や高齢者サロンなどで普及啓発を行いました。これらの場所を選んだ理由は、高リスク者と想定される後期高齢者が集う場であり、効果的な普及啓発になること。また、定期的な集まりの場であるため継続して取り組むことができること。さらに今後のごっくんリーダーとなる人材の確保につながる場になるのではないかと考えたからです。

実際に会食会等での実施を通してお世話役の方々をごっくんリーダーとして育成するとともに、次年度以降の普及啓発活動の展開につなげることができました。並行してごっくんリーダーが活動するツールとして、医学的知見に基づき楽しく取り組めるオリジナルの嚥下体操、「新宿ごっくん体操～色とりどりの道～」を音楽や医療の専門家や地域の住民の方々と連携して開発し、普及啓発活動のシンボルツールとして活用してきました。この体操は歌うだけでも、身体を動かすだけでも効果があり、講習会参加者の8割以上が続けたいと評価しています。

ほかにもなるなるフェスタや地域交流館まつりなど地域のイベントにも参加して区民への普及に努めました。

2年目は、1年目に開発した「新宿ごっくん体操」やDVD、体操の解説パンフレットなどを活用して専門職を含めた担い手づくりを進め、特にモデル地域の榎町、戸塚地区では継続的な取り組みとして地域に定着していけるように自主活動支援にも力を注ぎました。DVDプレイヤーやプロジェクターなどの機材がなくても体操に取り組めるようにCDや、歌詞幕を作成したり、ごっくんリーダー登録者が活動を記録したり、知識を確認するための『ごっくんリーダー手帖』。それから、仲間意識を高める缶バッジなども作成しました。

また、歯科医師会と連携して大新宿まつりや健康マルシェなどのお祭りイベントや、ごっくんリーダーと連携したエコギャラリーでの演奏会などさまざまな媒体を通じた普及活動も行っています。

2年目の事業の成果ですが、一つ目は摂食嚥下機能への理解や知識が深まり、維持向上に日ごろから取り組むことの大切さを普及啓発することができたことです。講習会の参加者の90%以上の方が大切さや、全身機能との関係性を「よくわかった」「わかった」と回

答しています。

二つ目は、2年間で啓発イベントを5回、約680名の方が参加。講習会は33カ所で行い、1,078名の方が参加、その内216名の方がごっくんリーダーに登録してくださいました。そして把握しているだけでも現在も13カ所以上、300名以上の方が日常的に体操を続けています。こちらのマップを見ていただきたいのですが、小さくて申しわけございません。ちょっと見づらいなのですが、大きな丸のほうが啓発イベントや講習会を行ったところでございます。青が1年目、黄色が2年目、赤が3年目の開催場所になっています。

少し空白であります、牛込笹筒地区や下落合地区、それから大久保地区では、今年度地域センターで行う予定ですので、ほぼ区内全域で偏りなく実施することになります。

それから、ごっくんリーダーについては、自主活動ができるようにきめ細やかに活動支援を行ったことで定期的にかつ日常的に取り組める場ができておりまして、この星印がついております場所が継続的に行われている場所になります。

それから、ごっくんリーダーに登録した方々はこの小さな緑の丸でございます、区内全域にわたって広がっているということ。それから、この黄色い小さい丸のほうは専門職のリーダーでございます、その方たちも全区にわたって広がっております。

また、リーダーと一緒に多様なスタイルの普及啓発や担い手の育成も行っています。具体的には区民コンサートでごっくん体操をラテン風に編曲、演奏して紹介したり、小学校の生徒たちのところに出張講座をしたり、病院や介護施設などでの講座や、日赤分団の研修会や地域センターまつりなどでの啓発活動です。私たちはスムーズに活動できるように講師やスタッフとして参加して、資料づくり、DVDやCDなど実施に必要なことを相談しながら提供しています。

三つ目は、講習会のときには必ず相談窓口を紹介して、摂食嚥下機能の衰えを感じる方や潜在的な高リスク者の方が、かかりつけ医や専門家にきちんとつながるようにしています。

四つ目ですが、施策として「新宿いきいき体操」、それから「しんじゅく100トレ」と一体的に普及することになって、区民や地域へそれが広がってきています。

最終年度となります今年度の活動ですが、本事業が一過性の物として終わらないように今までの課題を踏まえて具体策を実施していきたいと考えています。まず年度当初に年間のごっくん体操講習会を計画し、年間スケジュールを区民に情報発信することにより区民

が受講しやすいように環境を整えます。また、スケジュール作成に当たっては、地域性を考慮し身近な地域で受講できるよう工夫します。

一方で、引き続きリーダーや地域拠点と連携して啓発活動や新たな担い手の発掘、拡大も行っています。

DVDについては、当初講習会で知識を身につけ、仲間やグループ活動など、みんなで一緒に定期的に行える方を優先して提供してきましたが、今後はより多くの方に活用していただけるように、特別なグループ活動をしていなくても継続的に行いたい方には間口を広げて提供していきたいと思っています。

さらに、育成したごっくんリーダーが地域で活動していくためのサポートとして「ごっくん体操みんなの集い」を1年に1回開催して、ごっくんリーダーの知識の維持向上や交流、情報の受発信、ノウハウの継承などを行っています。また、従来からのアンケート調査やアウトカム指標に加えてごっくんリーダーを対象とした活動状況アンケート調査を実施したいと考えておまして、当事者の意見を反映した活動やごっくんリーダーのフォローアップに生かしていきたいと考えています。

その他区のホームページ等の連携や図書館などの公的施設を活用して広報活動を強化していきたいと考えています。

以上です。

藤井座長 どうもご苦労さまでした。丁寧にしていただきました。事業説明を終えていただきましたが、所管課のほうから補足説明はございますでしょうか。では、お願いいたします。

所管課 所管課の健康部健康づくり課の地域医療・歯科保健担当副参事の白井と申します。どうぞよろしくお願いたします。

所管課からは2点補足をさせていただきたいと思います。1点目でございますが、今メディカルケア協会さんのほうからのご報告の中にもございました「しんじゅく100トレ」について、健康部では高齢者の方々がグループで筋トレをできるような体操を開発いたしまして、それを現在広めているところでございます。昨年度はモデルグループ3グループが実施しており、今年度は既に16グループが取り組みを始めています。「新宿ごっくん体操」の歌を歌うことも取り入れていただいている、必ずしも体操までは行っていないグループもありますが、少なくとも「ごっくん体操」の歌を歌ってもらうことによってお口の体操を取り入れていただくように展開しているところでございます。

2点目になりますが、昨年度から新宿区では70歳以上の方に歯科健康診査の中で口の機能をチェックするというところを取り入れてございます。その中で、検査結果でお口の機能が落ちているというふうに診断された要指導の方につきましては、「新宿ごっくん体操」のリーフレットを先生から配っていただいて指導をしていただくというようなことで、日ごろの健康部の事業においてもこの協働事業をつなげていっているところでございます。

以上になります。

藤井座長 ありがとうございます。それでは、実施団体からの事業説明と所管課からの補足説明が終わりました。それでは、委員から質問をさせていただきます。あらかじめ申し上げますようにヒアリングの時間は約30分となります。どなたからでも結構です、質問がある方は挙手、そしてご発言をお願いいたします。順不同です、いかがでしょうか。

では、伊藤委員。

伊藤委員 伊藤ですけれども、皆さん、ご苦労さまです。まず結果を見る限りは、順調に推移していると思うのですが、例えばごっくんリーダーの目標100名が216名という形でアウトプットされているのですが、これをそして各地域に先ほどの地図を見ると散らばっている。各地域からごっくんリーダーが誕生しているということが出てきたのですが、これは最初目標として各地域ごとにあったのか、それとも結果オーライになったのか。そこだけまず簡単に言うとどっちでしょうか。

メディカルケア協会 結果オーライというよりは、計画的に進めていったと考えております。

伊藤委員 では、各地域ごとに目標値があったわけですね。

メディカルケア協会 目標値は地域ごとというよりは全体で100名になります。

伊藤委員 でしょう。だから、結果オーライになってということだよ、散らばって出てきたというのは。

メディカルケア協会 そういう意味ではそうです、はい。

伊藤委員 まずそこをちょっと質問したのですけれども。それとこの216名の方が出ているのですが、その人たちはただ登録したのか、それとも既にどのぐらいの人が活動に入っているのか、ちょっとそこを聞かせてください。

藤井座長 今、伊藤委員からご質問、よろしいですか。

山田委員 拠点の中で何人ぐらいのリーダーさんが具体的に活動しているのか、その辺のところがわかればとあって。何かさっきの星のところ、具体的などころで説明でき

るものはないですか。

メディカルケア協会 講習会参加後に定期的に体操を続けている拠点が13カ所、先ほどお示ししたのですけれども、そちらでごっくんリーダーさんたちが中心になって活動をしているということです。

伊藤委員 だから、どのぐらいの人が活動しているのでしょうかという、216名の登録があるけれども、そのうち216が活動しているのか、登録があるけれども今活動しているのは50ですよとか。

メディカルケア協会 ああ、そういう意味ですか。

伊藤委員 とらえていなければとらえていないで。

メディカルケア協会 はっきりとした数字は今出ておりません。

伊藤委員 では、今度とらえて、そこを。登録が目的ではないから、活動していることが目的だから。

メディカルケア協会 そうですね、はい。

伊藤委員 一応そこを質問した。

メディカルケア協会 ありがとうございます。

所管課 補足で、担当課の健康づくり課の鈴木と申します。よろしく申し上げます。先ほどのことに追加なのですが、ごっくんリーダーさんの活動状況というのが、私どもも完全に把握し切れていないというところは認識しておりまして、今後アンケート調査を、集いを2月、3月ごろに予定しておりますので、その案内とともにごっくんリーダーさんにアンケートをとらせていただいて、どういったところでどんな活動をしているのかということも、アンケートを通して全体を把握していければというふうには考えております。

藤井座長 よろしいですか。そのほか、どうぞ質問をお願いいたします。

平井委員 平井と申します。よろしく申し上げます。

目標に対して結構参加者数、ごっくんリーダーと、3点質問したいと思うのですが、目標に対して参加者数もリーダー登録者数もかなり大幅に上回っているのですけれども、その要因というか、何でこんなに積極的だったのかということと、もう一つ、アウトプットはいいのです。アウトカム、先ほどちょっとアウトカムの話をされていたのですけれども、どうやってはかるのかということと、最後に参加者を見ると女性のほうが圧倒的に多いのです。どちらかというと男性のほうが、女性はもともと活動的でいつも元気だと思うのですけれども、男性のほうがもうちょっと参加してもらって重点的にやる必要があると思う

のですけれども、それについて今後どう考えているか、その3点をお聞かせください。

藤井座長 よろしいですか。まず1点目は、リーダー数や参加者数が大幅にもう目標よりも上回ってしまっていて、その現状について改めて事実確認。それと二つ目がアウトプット、アウトカムのお話をされましたけれども、アウトカムの測定法、どのように測定されているのか。それから、参加者の属性で特に男女で見た場合女性が多い現状、男性が少ないという現状について、ちょっと改めて確認をと。

メディカルケア協会 3点、ご質問ありがとうございます。数については、講習会でアンケートをとったときに「大変楽しかった」とか、「ごっくんリーダーになってみたい」とかというような積極的なご意見をたくさんいただいております、やはり講習会の内容がよかったり、ごっくん体操自体が高い評価を得たことで、実際に自分の日常生活の中で取り組んでみたいと思っただけなのではないかと考えています。

それから、2番目のアウトカムの測定法ですけれども、実際にアンケートをその講習会の時々でとっておりまして、そのときのアンケートの中からとった数を集計しています。

平井委員 もう1回、アウトカムはアンケート。アンケート、測定方法として……。

アウトプットはいいのです、これだけ参加しています、これだけリーダーが登録されました。ではなくて、実際にこれをやったことによってどういう効果が上がるか。かなり難しいと思うのですけれども、どう考えているのか。

メディカルケア協会 アウトカムの一つが先ほどご質問にもございましたけれども、誕生したごっくんリーダーがどれだけ活動していくかということになるかと思えます。それにつきましてはこれからアンケート調査をしていきます。

それから、この活動をやって区民の方の食べる機能がどれだけ上がったかということですが、これにつきましては簡単な手法ではありますけれども、発声を何秒できるか、要するに呼吸がどのくらい継続できるかという方法がございまして・・・8秒間でしたっけ。

所管課 平均が15秒です。

メディカルケア協会 15秒でしたか。失礼しました。平均値があるのですけれども、それよりもその方の状態が活動を続けることによってよくなっているかどうかを計測していくことも考えております。よろしいですか。

藤井座長 その3点目。

メディカルケア協会 すみません、3点目ですよね。

藤井座長 男性参加者。

メディカルケア協会 男性のことですよね。先ほどの1番目のなぜこれだけ参加者数が伸びたのかということにも関連するかと思うのですけれども、なるべく多くの人に、区民の皆様こういう活動をしているということを知っていただくために2年目はいろんなところに、団体に呼びかけをしております。区の保健関連のところや、NPOがかかわりのあるところ、さまざまところに呼びかけをしたのですけれども、そういったところであまりなまりを持っている方、要するに熱心に活動をしている方がそもそも女性の方が多いのかなと思うのですが、そこを通じてまたほかの方に口づてで広報していただいているところもあって今のところ女性が多くなっていると思います。

ただ、ご指摘のように男性にももちろんこれから多くの方に参加していただきたいので工夫をしていきたいと思っています。

平井委員 男性の腰は重い。

メディカルケア協会 そうですね、はい。

藤井座長 ヒアリング、どうぞ聞きたいことがあったら、平野さん。

平野委員 平野です。せんだって、報告会で歌を、立たせて歌わせて、すごくいい歌で、体操も私とかは健康になったような気がしていい体操だなと思いました。ありがとうございます。せっかくDVDだとかもらってすごくよい活動ですので、これが4年目以降どう所管課として活用していくのかということをお聞かせ願えないのかなということと、あともう1点で新宿区特有で外国人の方が随分多くお住まいというふうになっておりますけれども、こういう方たちに対してそろそろ高齢化問題も同時に出てくるでしょうから、そういうハングルだとかそういうものに対応した教材だとかについてのお考えはあるのかなとかも、そこも少し伺えればなと思いました。よろしく願いいたします。

所管課 では、所管課のほうでお答えしたいと思います。4年目以降になりますけれども、今活動の拠点がいろんなところに広がっていているということで、この拠点でごっくんリーダーの方が引っ張っていただいているというふうにも認識しております。ですから、一つはそのごっくんリーダーの方々のモチベーションが下がらないようにフォローをしていくというのが大事というふうに考えますので、その点はメディカルケア協会さんともこれからちょっとご相談をさせていただきながら、次年度の活動をどうつなげていくかを考えていきたいと思っているところでございます。

もう一つは、さらに普及していくというところでは保健センター等でも、先ほど申し上げました「100トレ」とあわせてとか、いろんな手法でいろんな体操を展開しております。

すので、そういった手法もあわせながら、さらに普及啓発活動を広げていきたいというふうに考えているところでございます。

それと外国人、まだ外国の方々までというのは発想が至っておりませんでした。今回の歌も日本語で口をよく動かしていくというところから始まっているので、少し定着してきましたら次のステップアップとしてそういったところにも展開をしていければいいなと思っております。ありがとうございます。

藤井座長 よろしいですか、ほかに。石橋さん。

石橋委員 区民委員の石橋です。よろしく願いいたします。質問が大きく3点あります。継続されている場所ということで星印の紹介をしていただいたのですが、こちらの継続というのは今回の協会、その中で協会の方のサポートがどれだけあるのかということと、あと会場の負担をどうされているのかということと、あと頻度。例えば毎週やっていたらしゃるとか、どのぐらいの頻度かを教えていただきたいのがまず1点。

次に、区民の祭りとか小学校でもなどなどと、ちょっと早口でいらっしゃったのでそれ以上は聞き取れなかったのですが、そのあたりのちょっと具体的な資料がなかったのですが、例えば小学校だったらどういう位置づけ、何の授業とか、どういう位置づけでお年寄り向けの活動を実施されているのかという質問が2点目。

3点目が一番最初の伊藤委員からの質問があったようにごっくんリーダーの登録があっても実際活動していただかなかつたらというのは、本当はそれが一番の目標で、一番把握していらっしゃることかなと思っておりますがそのあたり。これから把握ということで2月にとというのは、とりあえず例えば2段階に分けて、とりあえず今すぐ把握して、残りの半期をまた集中的に活動していくというご予定はあるのかどうかということと、最後にちょっと補足なのですが、平井総合政策部長からの質問があったように男性の活動がないというのが日々ある中で、私も個人的にやっている活動もサロンはほぼ女性なので、次は男性向けのということで、男性限定の中身も変えてやりましょうかという話もしているみたいに日々かなりの工夫をしないと、デイサービスでも体操とかは幼稚っぽくて嫌だとかいうのが一般的なのでそのあたりの工夫、検討というのを今後どんな形で検討。例えばどこかにヒアリングされるとか、そういった手段というのが今すぐちょっと検討できるものなのか。済みません、四つになってしまうのですけれども。

藤井座長 要するにそれは3点ですか。まず、よろしいですか。

メディカルケア協会 まず継続場所についてなのですけれども、会場費の負担は基本的

には地域交流館のような公的な場所を使っているのではないそうです、各グループの。

石橋委員 それはもう幾らか負担は出ているふうに思います。

メディカルケア協会 恐らくもともと活動の拠点がある方々がなので、例えば体操でそこを利用されていて、そのときに一緒に「ごっくん体操」も取り入れていただくので新たな負担はないと思います。新しいグループをつくって行う場合は、また次の工夫が必要になるうかと思えます。

もう一つは、例えば講習会を実施した高田馬場シニア活動館では、館長さんがみずからごっくんリーダーとして日ごろの館の活動に入れてくださるということになっていましたので、そういう場合は会場の負担ということではなくて工夫をしてやっていただいているのではないかなと思います。さまざまな形で展開されていることと想像しております。ただ、しっかりと把握していきたいと思えます。

藤井座長 頻度とか、どのぐらいの頻度でされているのかとか、あるいは協会としてどういう取り組みをされているのかということ。

石橋委員 お手伝いとか何か。

メディカルケア協会 今回出ている13カ所についてはヒアリングもしていて、きちんと実際にやっていることを把握しているところです。この13カ所以外にもっとあるかもしれないなということで以上と言っているのですが、把握している所では大体月に4回、週に1回ぐらいずつほぼ皆さん活動しています。館主導でやっているところは、主に毎日15分～10分くらいの健康体操の中で「ごっくん体操」を取り入れる形で引き続き行っていると伺っております。

藤井座長 それから。

メディカルケア協会 それでうちのほうのサポートとしては、一度行ったところに対しての2度目、3度目というのはなかなか難しいので、日ごろの活動は、ごっくんリーダーさんを中心にして行っていただき、1年目に行ったところなど少し間があいておりますので様子を伺ったりとか、必要があるときには実際に伺って体操指導を再度したりとかということとしてはしております。

藤井座長 それから、2点目が小学校で具体的にどういう取り組みを。

メディカルケア協会 今回ご紹介した小学校の取り組みですけれども、これはごっくんリーダーさんを通した活動でございまして、私どもが直接的に小学校に行っているというよりも、ごっくんリーダーさんが自主的な活動として小学校に出張講座をしたということ

をご紹介させていただきました。それは具体的に言うと歯科医師の先生なのですが、その先生が専門職のごっくんリーダーさんになってくださっていて、小学校の学校医になっていらっしゃる関係でお話をする機会があって、そのときに体操を取り入れて話をさせていただいたところ、小学生のほうから大変よかったということでお手紙を文集みたいな形でいただきました。大変喜んでいただけているというのがわかります。私たちが直接手をかけなくても、そのようにしてリーダーさんたちが自主的にあちこちでお話をされているという一例になります。

藤井座長 それと3点目。石橋さん、3点目は何でしたか。

石橋委員 一番最後が男性。

藤井座長 男性でいいのですか。

メディカルケア協会 男性の取り込みは本当に一番気になっているところで、むしろ男性の方がむせやすかったりする場面も多いので、男性の方にこそ来ていただきたいのですが、実際に既存の活動をしていらっしゃるところを中心に回っていると、なかなか男性が活動に入っていないので、男性に広げるために町会だったり自治会だったり男性の方が比較的多く地域活動をされているところにお声かけをしているということがありません。

それから、新宿区での取り組みではないのですが、私どもメディカルケア協会の取り組みとしては、企業退職者の方々向けに誤嚥予防や、食べる力の体操を広める活動を実際に行っておりまして、企業を通した形での早い段階、50代、60代半ばぐらいの方たちに対しての普及啓発活動を今実際やっているところなので、そういった経験も頭に入れながら新宿区でも活動していきたいと考えています。

藤井座長 よろしいですか。

石橋委員 ありがとうございます。

藤井座長 あと11分ちょっとなのですが、では土屋さん。

土屋委員 先ほどの小学校での取り組みのときに、場所とかやり方とかそういうのはリーダーさんにお任せしているというお話をおっしゃったのですが、協会のほうでこういう場所でやったらどうですかとか、橋渡しとかということはされないのですかということと、町会の方に町会ごとに今男性の参加を呼びかけるために協会のほうで声かけをしているというお話でしたけれども、それはどのような形。リーダーさんを派遣しますからやりましょうという、ごっくん体操をやりましょうということなのですか。それとも嚥下

は大事だからというようなメディカルケアさんのほうでやるからいかがですかというふうな声かけなのか、そちらをちょっと教えてください。

メディカルケア協会 町会等に呼びかけるときには、体操を開催する予定に合わせて、例えば6月12日にこの地域でやりますということがはっきりした時点で、区のから出張所を通してとか、地域館に出入りをしていたりとか、利用されていたりとか、地域の町会の方たちと連携をしているところがあるので、そういうところを通じて具体的にお話を持っていったりしています。

それから、この地域だったらこの方にお話をすると広まるよというようなキーマンがいらっしゃるので、そこの方のところには実際にお目にかかってお話をさせていただいたり、チラシを持っていったりというようなことをしています。

土屋委員 直接町会に行ってお話を、この町会を対象にやるとかではなくて、どっちかという出張所単位で、地域単位でやりましょうという活動ですか。そうするといつも来る人が町会長と役員が2人ぐらい、どうしても行かなければいけないという形で。そんなグループがもういつもいつもやっぱり同じような感じだと思うのですけれども、直接町会ごと、町会の役員会のところに出向いて行ってやるとか、そういうことはお考えではないのですね。

メディカルケア協会 考えてないということではなく、そういうやり方もやっていきたいと思っています。私たちはどちらかというところこの地域の中で活動している団体さんとかを通して、この地域だったらこの方というようなキーパーソンを見つけるというようなやり方をしております、ちょっと言葉が足りなかったかもしれませんが、榎とか戸塚地区なんかの場合だと、実際に活動をしている団体さんを通じて本当にその地域の中での世話役をしている方たちというのを見つけていって、そしてそこにお話をしていくというやり方もあわせてやってきています。なので町会だけに頼っているということではありません。

土屋委員 どっちかというところそうやってリーダーさんお任せみたいな。さっきの小学校、一番最初に質問させていただいたのですけれども。

メディカルケア協会 いえ、お任せということではなくて、私たち自身ももちろん啓発活動をしていて、足で結構稼いで本当に丁寧に丁寧に地域の中を回りながらやっていることはご理解をいただきたいです。小学校の話をしたのは、私たちだけが開発活動をしている。一団体だけがそういうふうに全区をあちこちを歩きまわって伝えるだけではなかなか

これ広まらないと思っていて、そこにごっくんリーダーさんがかかわることによって、さらに加速して広がっていくというふうに考えておりますので、あえてごっくんリーダーさんの活動としてはこういうことがありましたとお話をさせていただいたということです。

土屋委員 ありがとうございます。ちなみに私、戸山シニア活動館で毎週この「ごっくん体操」を、50人ぐらいの団体、全員で。

メディカルケア協会 ありがとうございます。

土屋委員 結構活発に。

メディカルケア協会 どうもありがとうございます。

土屋委員 そういふところの把握していないところがあるのでは。

メディカルケア協会 おっしゃるとおりだと思います。活動状況の把握がまだまだ足りないなということは実感しているんで、本当にローラーをかけて一つ一つ見ていかないといけないと思っておりますし、そういうことをすることで次の活動だったり、何が足りていないのかがはっきりすると考えています。

委員の先生たちには今後ともぜひごっくんリーダーさんとしてご支援いただけたらと思います。

藤井座長 それ、ちょっと次の意見交換ということでまた出ると思いますので、まずヒアリングでは先ほどの事業説明の中で不明な点であったりとか、あるいはわからないことについて質問をしていただければと思いますが、ほかにはいかがでしょうか。あと6分程度、残っているのですが。

では、松井委員。

松井委員 公募委員の松井でございます。こんにちは。いろんなところで活動をなさっていて、前回拝見もして活発な活動だなと思いました。

質問は一つです。この先知識や体操の向上が図れるようにということが記載されているのですが、それは例えばどんなことをお考えなのかということをお教えいただけますか。体操の向上、知識の向上とはどういうことでしょうか。

メディカルケア協会 ごっくんリーダーの方たちに対しては、講習会や、リーダー手帖をお渡しするのですが、やはりその1回の講習会だけでは時間がたつと忘れてしまったり、自己流になってしまったりとかというのは、実際にフォローしてわかりましたので、やっぱり定期的に補習というか、そういうことが必要だったりするなと思っております。

それで、一つの方法としては、「ごっくん体操みんなの集い」というのを開催しようということで、そのときにもう一度きちんと学べるような機会をつくっていきたいと考えておりますし、そこで実際に体操を行っている他のグループとも情報交換しながら、「もっとこういうふうにしていくと人が集まる」とか、「活動が活発になる」とかというようなお話もしてもらったり・・・そんなふうに、場を利用していきたいと思います。

松井委員 ありがとうございます。

メディカルケア協会 それから、通常は私が中心に講座をさせてもらっているのですが、つどいの時には、リハビリの先生など、もっと詳しい先生方にも来ていただいてより深い内容で、知識の向上も図りたいと考えています。

松井委員 ありがとうございます。

藤井座長 よろしいですか。ほかはいかがでしょうか。では、関口委員。

関口委員 関口です。1点ありましてインセンティブ設計というところなのですが、先ほど来リーダーさんがいかに自発的にやっていくかというところの計測のお話は出ているのですが、もちろん自発的にやってくださるのが、いわゆる無償ボランティアで自発的に何の見返りもなくやっていただくのがもちろんいいとは思いますが、それでやれる方というのは結構限られているという可能性がある中で、政府を初めいろんなところがポイント制度とか、あるいは組織だとか企業と組んでサンプリングの何かそういう健康的な飲料を、これはお茶ですけどもそういうのもつけるとか、そういうことの工夫を皆さんやられていると思うのですね。

ちょっとググって見たら新宿区さんも予防ポイント制度が予算化されている。これ、予算化されている、でいいのですよね……。

所管課 健康ポイントですか。

関口委員 健康ポイントが750万ぐらい予算化されていると思うのですが、健康ポイントを例えば体操に来た方とか、あるいはリーダーさんにはあげるとか、そういう何かやっぱりインセンティブ設計をしていかないと、なかなかこういうものはいろんな自治体さんも、そういうNPOもやっているのですが、結局尻すぼみになって終わってしまうのです。そこら辺、何かお考えがあればお聞きできればと思うのですが。

所管課 では、所管課からお答えさせていただきます。言っていて、ああ、そうだよなど、今思ったところなのですが、健康ポイントも始まったばかりのところ、ウォーキングのポイントから始まって、今少し今年度広げてきているという状況なのです。

同じ課でやっているところがございますので、様子を見ながらそういった発想も応じて広げていかれるといいのかなと今ちょっと私だけが答えてはいけないのかもしれないのですが、考えてみたいと思います。ありがとうございます。

藤井座長 先ほどお話が、モチベーションをどうもっていくのだというお話もあったところに関連してのご確認だったと思います。いかがでしょうか、ほかにヒアリングで確認したいことということはございますか。

山田委員 では、関連で1点だけ、山田です。今所管課さんのほうから健康ポイントの話があったのですが、健康ポイントの仕組みはあれ事前にエントリーしていただくのですよね。

所管課 そうですね。

山田委員 ですね。それで実際の例えば男性、女性の比率とかって健康ポイントからエントリーしているというような状況はその辺は何かありますか。わからなければいいです。

所管課 ちょっと今、こちらには持ち合わせていないので調べます。

藤井座長 では、そろそろ時間にもなりましたので、だんだんこうしたほうがいいのではないかというお話も出たので、どうでしょうか。意見交換のほうに移らせていただいてよろしいでしょうか。

それでは、意見交換にこれから。意見交換はあらかじめご案内しましたが、時間は25分ということです。基本的にはもうそういうように進行しているのですが、お一人大体3分程度ということで、順不同で自由にどなたからでも結構ですのでご意見のある方、こうしたほうがいいのではないかとか、こういう要望があるということはお話をいただいても思いますが、どうぞ。

平野さん。

平野委員 私が勉強不足でわからないのですが、新宿区の健康施策の中でごっくんリーダーというものというのは、そしゃくだとか食べ続けられるという環境のせいだと思うのですが、そしゃくができなくなったときに多分低栄養という問題が出てくるじゃないですか。それ以前の高齢者の低栄養化問題というのに対しては、何らかの例えば定期健診だとか、何らかの指導によって高齢者の健康度合いを、区の施策の中で何かチェックする仕組みづくり、あるいは高齢者の健康診断でもアルブミン値をもって何らかの啓蒙活動をするだとかという取り組みと連動することはあるのでしょうか。

所管課 今やっているかというご質問ということでよろしいですか。

平野委員 そうです。

所管課 おっしゃっていただいたようにいろんなところで健診でいろんな値をとっていたり、栄養士が出張って行って、健康教育で低栄養のお話をさせていただいたりとか、さまざまな活動はしているところでございます。

ただ、確かにこちらのごっくんリーダーの活動については今3年目を迎えて、とにかくリーダーをふやすことで精いっぱいだったので、ほかの事業との絡みというのはまだまだこれからでございますので、あわせて検討をしっかりとしていきたいと思っております。ありがとうございます。

藤井座長 では、高橋部長、お願いします。

高橋委員 健康部の高橋です。先ほどちょっと出ていました「100トレ」と連携してやるということの中でDVDを今回作成したのですけれども、その中に摂食嚥下のほうの部分も入れておまして、そこで高齢者の低栄養のこともたしか触れていましたよね。

所管課 そうですね。これは歌だけが入っているのですけれども、それとあわせてDVDに低栄養のことも入っています。

高橋委員 高齢者の低栄養のことが入っていて、きちんとたんぱく質をとりましょうとか、そういったこともあわせて普及できるように考えています。また、高齢者の健康づくりという点ではバランスよく、このお口の体操だけではなくて筋トレもして、フレイル予防ということで、足腰が衰えないようにということとか、……全体的には「いきいき体操」……普及していただいて、福祉部の方から……いただきましたけれども、そういったところと連携して全体的な健康づくりに対しての、健康づくりという点では、そういったことを意識して進めているところでございます。

藤井座長 平野さん、さらにその連携ということと言うと、この連携を使いながら高齢者の低栄養の問題については配慮をしながら取り組みを進めたらという、そういうこと。

平野委員 ここで先ほどアウトカムというお話が総合政策部長のほうから出たときに、アウトカムで、高齢者の健康状態がどう改善されたかが一番わかりやすい指標だから、そのときに問うているのはアルブミンなのか、あるいは本人の運動時間なのか。何かその指標を組み立ててあったほうが、誰かに説得するときに、ああ、……そうですねというお話になるのかなと、言葉の使い方としてそう思いました。感想でございます。

藤井座長 そのほか、伊藤委員。

伊藤委員 伊藤ですけれども、今高橋部長からお話があったことと少しは関連するのだと思うのですが、考えていたのは「新宿いきいき体操」ということと、それから「しんじゅく100トレ」、それと今回の「ごっくん体操」とあるわけです。この3本柱になっているのだけれども、今別々にDVDなりCDができているでしょう。それをドッキングして一つの物に出ると使いやすいねということなのだけれども。

所管課 今2枚組にはなっているのですけれども。

伊藤委員 そう、一つのCDに入れてしまえば。

所管課 さらに一つにということですね。ようやく三つの体操が2枚のDVDにまとめられてきました。

伊藤委員 そうすると一つのCDで済むわけだ、DVDでも何でも。そうするとそれを選んでいけるから、枚数3枚を1枚にすればコストも安くなるだろうし、大した物ではないのだけれどもCD。と思っただけで、そういうのができるのかなということで管轄が健康部さんなので、それも簡単にやる。

所管課 「いきいき体操」が福祉部の所管なので、また調整をしていきたいと思います。

伊藤委員 そうすると新宿区のやつがここに一つにできていいと思うのだけれども。

所管課 はい。

藤井座長 では、土屋委員。

土屋委員 「いきいき体操」も「いきいき体操」のサポーターもごっくんリーダーさんも、せっかく自分で教えていこうという気持ちでいろんなところで講習を受けたりしているのですけれども、それを発揮する場所がなかなかないのです。スポーツ推進委員とか地域で活動している人は中心になって、やっぱりそういう場でどンドンどンドンやっていくのですけれども、そうではない今回ごっくんリーダーさんなんかすごい人数がドンと来て、みんな身につけて帰るわけじゃないですか。それを、ぜひ活躍できる場を何とか行政のほうでもつくってあげたほうがいいんじゃないかなと思う。1回やって終わりになってしまうので。

だから、さっき言った感じでその町会の役員会のときに、地域にこういう人がいるからちょっと1回やってみましょうみたいな、全体でしてくれないとやっぱりなかなかそういう自分で企画してやるのが苦手な人はすごくいると思うのです。だから、その人をサポートするためにちょっと行政のほうでもどンドンどンドン地域に根づかせるためにやっていったほうがいいかなと。

所管課 ありがとうございます。

藤井座長 土屋さんの話で、今いかがですか、それに対して。

所管課 ご意見としてまさしくそうだなというふうにして伺っておりましたので、それもどんなふうにしたらできるか検討していきたいと思います。ありがとうございます。

藤井座長 それでは、石橋さん。

石橋委員 今の土屋委員の意見を受けてということなのですが、ちょうどこれからの季節で夏休みにラジオ体操があるので、私の地域はラジオ体操の後に空手みたいな何かそういった体操もあって、私はラジオ体操よりもそっちのほうがやりたいなというか、好きなのですけれども、そういう形で何か従来の活動があって、おまけみたいなのだとちょうどおっしゃったみたいに基本的にかんりの箇所です必ずされることなので、認知度も高まるかなと今ちょっと伺って、これからのタイミングで、もしかしてギリギリ間に合うかなと思いましたので、それも全部じゃなくても少しずつでも追加できればなと思いました。

所管課 参考にします。ありがとうございます。

メディカルケア協会 おっしゃるとおりで、広げ方として新たにグループをつくっていくというのはやっぱりすごく難しくハードルが高いことだと思うのです。それで当初から既存のグループを中心にお話をさせていただいていたという経緯もあるのですけれども、既存グループの方たちが日ごろの体操にプラスアルファして、ごっくん体操を取り入れるというこの構図が意外と好まれていて、皆さん受け入れやすいということもわかってきましたので、今おっしゃられたご意見を踏まえて、従来の活動プラスアルファということをご希望してやっていきたいと思います。どうもありがとうございます。

藤井座長 そうですね。僕もメディカルケア協会さんとしては、どういう取り組みを今発揮される場というのをどういうふうにお考えになられているのかお伺いしたかったところだったから。

メディカルケア協会 ありがとうございます。私たちとしては具体的には、実際に活動をされている方たちとどうやってコンタクトをとっていくかということがポイントだと思っているので、そこをまずは開拓をしていって出会いから始めて、そして信頼関係をつないでやっていくということを考えたいと思います。

藤井座長 よろしいですか。では、どうぞ。意見交換ですので要望やアドバイスをどうぞ、おありになられたら。

山田委員 山田です。教えていただければというふうに思います。今回高齢化が進む中

で摂食嚥下機能の維持向上していくことは、健康寿命の延伸のために極めて大事なことで、すというところで、本当に企画提案をいただいたという中での事業の実践ということで2点ちょっと教えて。

今本当に素人なのでわからないので教えてもらいたいというところが基本なのですけれども、町場にいる一般の高齢者の方で健康を維持していくために、これ以上自分たちの体の機能を落とさないためにこういうことをやると大事です、いいことですということでそのリーダーを育てて、あるいはどうそれを広げていくのかというところでご提案されているわけなのですけれども、例えば高齢者の施設、入所型の施設に入っている人たちみたいなところには、こういう今の活動というのは考えたことはないのでしょうかというあたりのところで、本当に理事長さんが山梨のほうでかなりいろいろ広域に展開されているというお話なんかもあったじゃないですか。

男の人がなかなか関心を持ってないとか、健康に対して何となく普通に思っているだけで、要は関心があれば参加しないわけですね。関心がある人なり、やっぱりこういうことが大事だと思っている人のところからとっかかっていったほうが、とりあえず参加者をふやすというところで行くと先ほどのラジオ体操も一つのきっかけにしてみたいなことだと思うのですけれども、その特養がこういうのに当たるのかどうなのかわからないのですけれども、例えば入所している中でも食べられなくなると誤嚥性の肺炎になるとか何だとかあっていろんなことがあった。実際うちの母親なんかもそうだったのですけれども、例えば区内にある福祉施設みたいなのとチャンネルを持ってみたいなことというのは、事業の効果としては意味というものは持たせていくこととはできるものなのですかという。

あるいは山梨のほうでやっていっちゃるとか、いかがなのでしょう。

メディカルケア協会 山梨のほうでは実際に特養やケアハウスで歌う嚥下体操を使っております。ただ実際にもう食べられなくなったような方々が、じゃあ、これをやって治るかというところ、そこはちょっと難しいです。これはあくまでも介護予防といいますか、機能維持の体操なので、まだ全然食べられる元気な人たちにはこれ以上機能を落とさないようにという意味でそれなりの効果があるようです。

とにかく体操が楽しいものですから、食べたり飲んだりの機能維持というだけではなくて体を動かしたり歌ったりということで、非常に明る元気になるといいますか、皆さん楽しみにされています。それからお食事の前が効果的です。特に何もせずに食べるよりは、この体操をしてからお食事をすると、ストレッチをしてからご飯を食べることになります。

ので、飲み込みやすいようです。

山田委員 地下の会議室で見せていただいたあれですよ。

メディカルケア協会 はい、そうです。いきなり食べるよりは食べやすくなるということで、介護施設等でも専門職の指導の下、使えるものだと思っています。実際にごっくんリーダーさんとして専門職の方々にも登録いただいているのですけれども、その中に高齢者施設や介護施設等で働いていらっしゃる職員の方もいて、デイネットさん・・・施設事業者の団体さんですが、そこで講習会をさせてもらったところ、専門職の方々も「これだったら楽しくみんなにやってもらえるよね」ということで、ご自分の施設で徐々に使い始めているというお話は聞いております。

山田委員 ありがとうございます。

所管課 よろしいですか。制度上の話なのですけれども、平成18年度から介護予防事業が始まって、その後制度も変わってございますが、そのときに口腔機能の向上支援というのがプログラムにもう既に入っているのです。介護施設においてはそれがもうポイントというか、加算でとれるようになってきているので割と機能の落ちた方が通われていたり、入所されている施設においてはもっと早い時期に。早い時期にというか、そこではいろんなサービスとして提供されているところが多くなってきているのですが、残念ながら予防のところはまだまだ薄いということがあって、今回メディカルケア協会さんと一緒にやらせていただいているというところがございます。

山田委員 済みません、不勉強で勉強になります。

所管課 いえいえ、済みません。

藤井座長 よろしいでしょうか、ほかには。

平井委員 平井です。ちょっとこれ、ほかのお話になる。ある程度来年度以降効果の点でなぜこれを、今年こそどっちかというところの評価はまだ続くのですが、来年度以降の事業の話をついでにやってしまいますと、そうしたときに来年度以降はどうするのか。あるいは、これはどこの所管で、どこを目指していくのか。そのリーダーをふやすことなのか、それとも本当にアウトカムでお話。ちょっとそこら辺もわからないのですけれども。今の時点で来年度以降どういうふうに見ているのか、考え方を教えてください。

所管課 所管課としてというお話ですか。

平井委員 所管課としてです。

所管課 所管課としましては、先ほどもちょっと申し上げたようにまずリーダーの方が

これだけ増えてきていただいている。その中でも本当に活動拠点を持ってやっておられる方、それから講習に参加して少し学ばれた方、さまざまだと思います。ただ、リーダーとして登録していただきましたので、その方たちのモチベーションを下げないために、しばらくはそのフォローというのが一つの事業になろうかというふうに思っています。

あとは例えばメディカルケア協会さんとの協働事業はこれで終わってしまうわけなのですけれども、まだまだその普及啓発は先ほど申し上げたように予防が必要な方にこそ、この知識が広がっていないというのが現状ですので、保健センター等の健康部、それから他部も含めて一緒にやれるところをやらせていただきながら、区としてもさまざまな事業の中で展開していかれるような方法を検討したいというふうに考えております。

平井委員 その工夫とすればやっぱりリーダーさんたちをふやして行って、自主的な活動が展開できるようにするとか。

所管課 そうですね、そこが一つ大きなポイントになってくるかと思います。

平井委員 また、ちょっとこの評価会の委員の意見をいただくとお思いますので、実際今これは協働事業でやっているのですけれども、もし来年度続けてとなるとそれこそ一般の持ち出しで徴収の税金を使ってこれも助言して。これも一応協働事業で、300万で税金なのですけれども、また別の枠でやらなければいけなくなると思いますので、ほかの皆さん方のご意見を聞いてどうするかというのは所管課とこれからすり合わせをさせて……。

藤井座長 先ほど来聞かれているアウトカムの問題です。まだ8分程度ありますのでご意見、要望、アドバイス。先ほど質問のところに出ていた健康ポイントの問題であったり、あるいは男性をふやすのはというのは、その点についてはどうでしょうか。何かアドバイスとか、こういう取り組みがあるんじゃないかとかありますでしょうか。そこは先ほどヒアリングで出ていたものだったと思いますが。これからの取り組みでもう重なってですけれども、男性へ広げていくためのそのアクションというか、そういうのはお考えがあったら。

所管課 ご意見をいただいて頭の中を巡っているところでございますけれども、以前もやはり筋トレなどは男性の方が非常に興味のあるところだというふうに聞きました。男性は集団で何かやるというよりは個人でレベルアップしているところを結構好まれて取り組まれるというようなことも聞いておりますので、ちょっと「100トレ」も集団でやることなので、その場では難しいかもしれませんが、その手法とセットにしてこの「ごっくん体操」をあわせていくとか、何か既存の事業の中でも工夫できることもあるのかな

というふうに今思っているところでございます。

関口委員 それに関連して。前回から言っていることなのではございますけれども、おっしゃるとおりで男は別に偏見ではないのですが、みんなで楽しくというのはちょっとやりづらいのです。なので、孤独にやるというか、1人でやれるという点で言うと。みんなでやったほうが楽しいし効果があると私も思うのですけれども、でもやっぱりそういう男性はどっかかというとなんかあいう感じでやりづらいと思うのです、自分もそういう感じなので。

前回から申し上げているのは、今DVDとかCDがハードメディアでしか配られないじゃないですか。男が結局あれをもらうためには行かなければいけないのですよね。なので、ウェブとかみんなスマホを持っているので、高齢者の方も大分。ウェブで、動画サイトとかで流せば、自分で「パタカラ、パタカラ」と言う。ちょっと寂しいですけども、やればいいのです、早い話が。なのでちょっとそれはぜひしつこいのですけれども、ウェブで公開していただくと大分違うのではないかなという感じ。広がるかもしれないし、あと新宿区なんてこういうのがあるんだ、すごいなと関心を呼ぶことで、ご本人が見なくても家族が見て、SNSで見ました。ああ、これ、おじいちゃん、これ、楽しいよ、やりなよとかお孫さんとかお子さんが言えば男性も、おじいちゃんも、まあ、しょうがないな、じゃあ、ちょっと恥ずかしいけどやってみるかみたいなそういう子どもとかお孫さんから攻めないとなかなか難しいと思うので、そう簡単に男性ってやらないと思うので僕は。結果が9割女性というのはやっぱり圧倒的なもので。だから、そこを何とか回していくためには、ちょっとエッジのきいた施策を練っていかないと効かないのではないかなと思います。

土屋委員 それと「いきいき体操」もそうなのではございますけれども、映像でやる人がいつも女性なのです、体操を、そういうのを。そうするとやっぱり女がやるものかみたいなイメージもあるのでそれ、男性でつくってしまうというのも一つの例かもしれない。

藤井座長 いかがですか。

メディカルケア協会 斬新な、そうですね。本当にいいご意見をいただきました。ありがとうございます。あと先ほどいただきましたウェブに載せていく件なのではございますけれども、今年度まではごっくんリーダーを養成していくという3年間の計画の中で、DVDをインセンティブツールとして配り、差し上げるという意図もあって、すぐに動画サイトに載せるのはちょっとどうかなというふうに思いとどまっていたところでございます。

ただ、今年度終わったところでは、ウェブに載せてもっと広くアナウンスしていくように考え、準備しているところでございます。ありがとうございます。

メディカルケア協会 子どもたちとのコラボということだと、新宿区ではないのですけれども、実際に幼稚園とコラボしてやったことがありまして、敬老の日にあわせて子どもたちに体操を覚えてもらって、そしておじいちゃん、おばあちゃんをご招待して、そしてそこで子どもたちが教えるという取り組みをしたときに半分ぐらいおじいちゃんだったのですけれども、皆さん照れながらも一生懸命やってくださっていて、その後は体操DVDをお持ち帰りになって、家でも孫と一緒にやりますみたいな感じだったので、それはとても有効な手段だなと実感しておりますので、新宿区でもそういう展開も考えていけたらと思います。

関口委員 一応セオリーがありまして、私も実は環境教育専攻という大学のマニアックな専攻なのですけれども、結局環境配慮行動を大人に起こさせるためには、これはドイツの研究とかでもあるのですけれども、まずは子どもたちに教えて子どもたちから、自分の子どもからお母さん、これだめだよ、ごみ分別しなきゃと言われると、そういう環境配慮行動です。ごみの分別をしていくようになるとかという研究成果が幾つかあるので、やっぱりおっしゃったとおり区内の幼稚園とかでやって、どれぐらい同居率があるのかなと私はわからないのですけれども、同居率が高いのであれば本当に保育園とか幼稚園とか小学校とかでやって、その子どもたちからおじいちゃん、おばあちゃんとかお父さん、お母さんに言ってもらおうというこの子ども経由の攻め方というのは結構効くのです、こういう行動変容を促す施策で。なのでぜひそれをやっていただく、新宿区でもやっていただけるといいかなと。

メディカルケア協会 ありがとうございます。

所管課 私も地域医療のほかに歯科担当というのをやっているのですけれども、やはり子どもたちのところに健康教育で行かせていただくこともありまして、そういったお口のことに関連するプログラムとして保育園さんとか幼稚園さんにも提供していく道はあるなと思われましたので取りかかってみたいなと思っております。

メディカルケア協会 あと男性に関してなのですけれども、さっきちょっと企業の方という話をさせてもらったのですけれども、地域の中で探していくとどうしても男性で活躍している方となかなか出会えないものですから、むしろ企業から退職される直前の方たちとか、企業を通した形でOBの方たちとつながると結構男性の方たちの参加が多かったりします。また、経営者の方が年配だったりしますとご自分がむせを時間して、自分の誤嚥のことを気づいて、私どもの話に耳を傾けてくださって、企業の福利厚生の中に取り

入れて下さることがありますので、ちょっとチャンネルを変えて対応していくというのも一つの方法かなと考えております。

藤井座長 では、もうちょうど時間にそろそろなりますのでかなり活発なヒアリング、意見交換をやられたのではないかと思います。

それでは、本日のヒアリング、意見交換は終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。

(特定非営利活動法人メディカルケア協会・健康づくり課退室)

藤井座長 今回の事業提案評価について、実施3年目はこの1事業、地域の担い手「ごっくんリーダー」による「食べる力」推進プロジェクトだけですので、この事業評価、ヒアリングの意見交換は、きょうはこれをもって終了ということです。これでヒアリング、意見交換は終了しましたので、本日のこのヒアリングを含めまして委員の間で意見交換をしたいと思います。これは。

平野委員 これはキャッチボールをする。

藤井座長 キャッチボールですね。そういうことですね。意見交換、評価にかかわるような発言は控えていただいて、それについてはまたやっていただくから、これはよくなかった、よかったというふうになると、なかなか先入私見を与えることになりますので、この部分を私はこう理解しているけれどもというような事実確認の形で意見や情報交換をしつかりしたいと思います。時間は大体25分です。

それでは発言のある方はお願いいたします。

平野委員 平野です。区のご担当のお話もあったのですが、発声時間が延びることがそういう話が、効果があるのだみたいな話があったのですが、これは別に評価というわけではないのですが、その3年間をやって、3年前にやってこれをやり続けた人が、3年後にどう変化したのかというならば健康局とか新宿区からそれが財産になるのではないかなと思って、ただそれはそこまで動くかどうかなのです。それがその4年目以降にどう施策に位置づけるのかという、それが実証経過になるから、3年間お金を投資してもそれが回収できると思ったもので、107ページのここの表を使ってこの38人を追っかければどうかと思ったのです。

藤井座長 この107ページの最長発声持続時間の変化。

平野委員 今後の評価という。落ちていなければ……改善されたらこれはもう実際、新宿区のデータがとれたということで堂々と施策に反映できるものになるのではないのでしょうか。

藤井座長 いかがでしょうか。なかなか評価にかかる意見交換の場ということで、評価にかかる発言は控えていただくという、なかなか難しいところかなと思うのですが。

伊藤委員、お願いします。

伊藤委員 結構触れてしまうかわからないのだけれども、この課題・問題点で出てきた3年目に向けての課題の中で、講習会を受けたいがどこで受けたらできるのとか。それで、これでは年間予定がわかりにくかったと書いてあるのだけれども、これを受けて3年目の計画の中でもんで年間計画ができていのかかわかなかった。そこがちょっと気になったのです、どこで評価かと思ったのだけれども。

あとは各実施する団体の状況に応じて環境が違う。その環境の中でやっていくための工夫ができるようにしていくと書いてあるのだけれども、それも今回の3年目の計画の中にちゃんと取り込まれているのか。

ということは今まで1、2、3年の計画、長期計画が出ているのだけれども、それを根底で3年目が出てきているのではなくて、ちゃんとこの課題・問題点をとらえたのだから、それがその3年目の計画の中に盛り込まれているのかどうか、そこをちょっと知りたい。何か聞いていると、前からなのだけれども、協会さんのほうがやる気がないのではないのだろうけれども、何かうまいことを言っているのではないのだろうけれども、そんなような気がするのだ。ごっくんリーダーさんに任せている。この新宿区もそうなのだけれども、実態としてその下でやっている、動いている人たちの動きが見えていないような気がするのだ。いろんなところでやっているのはいいのだけれども、それを総合的に見たときにどんなになっているのというのではないような気がして、僕はそこが一番気になっているのです、ことしも。彼女1人、協会さん、団体のほうは1人で動いているのだと思うのだけれども。そうするとやはりできない。

そうしたら、やっぱりそれを何らかの形でやっていかないと、レビューするときにはこういうふうに行った、ここはこういうふうに行っていてよりもプログラムの一つのプログラムの中でやっていく、進行をやっていくというのが必要だと思うのだ。その中で工夫は各地区のごっくんリーダーさんに任せればいいのだけれども。

土屋委員 確かにそのリーダーさんがどんな方か。

藤井座長 土屋さん。

土屋委員 土屋です。リーダーさんがどういう形でやっているかというのは、現場に行ったりしていないから、やっぱり本当に与えるだけでフォローが全くないような気がします。

伊藤委員 日々のところで。

土屋委員 ええ。ただ参加した人の人数がこうでというようなアンケートをとったら、参加した人のアンケートではこうでしたというだけで、本当に実際どういう活動をそのリーダーさんたちがやっているのか、本当に把握していないような感じを受けました、私も。

藤井座長 また繰り返しになりますが。

土屋委員 いや、いい悪いとかではなくてもうちょっと。

藤井座長 評価にかかるような肯定的、否定的な何かご発言はできるだけ慎重にしていただきたいと思うのですが、今伊藤委員からお話があったり、土屋委員からお話があったのは、協会の活動というのをもうちょっと具体的に見たい、今回の。

伊藤委員 そう、そう、スケジュールでも。

藤井座長 ヒアリングでも。でも、先ほど協会から来ていただいた方も、こういうことをやっているというのをご理解いただきたいということを積極的におっしゃっていたような気もするのですが。ただ、ごっくんリーダーの皆さんが今度は216名、13カ所でそれぞれ活動されているというのは、そのごっくんリーダーの方にやっぱり多くこのプロジェクトのそれを担われているのかということでは評価の一因なのですよ。

何かありますでしょうか。

松井委員 松井でございます。この事業はもちろん高齢の方向けということで理解はしているのですが、この先ちゃんとこのまま続かなければ、本当に高齢の人だけだと後がないなとすごく思っていて、資料の中ではごっくんリーダーさんは高齢の方だけではなくいろんな対象になってもらいたいと書いてあるのだけれども、若い人たちに対して何かやっているかというのと、とてもそんな感じにはお見受けしなくて、その先もあまりあるような感じがないところが不安要素だなというふうに思いました。

以上です。

藤井座長 確かにそうだ。全世代的な取り組みがどうなのですかね、ちょっと見えなかったというところでは。

伊藤委員 見えていないのだ。

松井委員 そうなのです。

伊藤委員 それはどこかのごっくんリーダーさんがやっていたら、ああ、そのノウハウをこっちへ持ってきて使えるだろうとわかるのだけれども見えていない。やっているのだろう、頑張っているのだろう、熱意を持ってやっているのだろうとわかるのだけれども、どんな活動をしているのか。

関口委員 ちょっといいですか。先ほど伊藤さんから出たお話で、年間計画についてはチラシが入っていて、これ6月、9月、11月、1月と4回年間計画でやりますというのが入っているので、多分このいつやるのですかという点については、この新宿ごっくん体操講習会というチラシを配って、先々読みやすくするというので対応していると思えました。

先ほどの若者向けというか、ここは多分難しいところで、じゃあ、若者向きにやるのだったら多分今回のような曲調とか歌詞ではなくて、ロックでやるとか、よさこいソーラン風にやるとかそういう話になってくる。だから、あまりその対象を広げてしまうと結局最大公約数的なものが何なのかというところになる、つまらない体操になる可能性もあるので、私は今回はまずは主たる対象者である実際に口腔機能の衰えが懸念される高齢者の方々に受けそうな歌詞とか曲調とかというところでは、とりあえずはいいのではないかなと。

それはもちろん全世代的に好まれる物がつくれればいいのですけれども、それは当然お金もかかるし、有名なすばらしい作曲家の人とか、全世代的に、例えばアイドル的なノリとかという話になれば若者はやるかもしれませんが、それも誰が連れてくるのだとか、その金は誰が出すのという話になってしまうので、あまりこれ、これまでの会議で何回も言っているのですけれども、単一の事業にあれもこれも全て求め出すと、それはじゃあ、もっとお金をください、300万円ではできませんということになってしまうので、そこはあまりこの事業にあれもこれも全て求め出すと、それは団体さんも担当課さんもかわいそうだなという印象はありました。

藤井座長 アウトプット、それこそさっきから評価基準で言うとアウトプット、アウトカムで言うと、ここでの主たるアウトプットというのはごっくんリーダーをどれだけふやして、その活動場所をどれだけ拠点をふやすというのがアウトプットで、そのアウトプットを通して何を嚙下障害がどれだけ減ったとかいうのがアウトカムなので、そこにもうちょっとフォーカスを、もう一度我々が評価するに当たってもそのところは肝ではない

かと、そういうことですね。

関口委員 ちなみに「100トレ体操」のほうは750万も予算措置されているので、それを考えると、まあまあ、これは単年度で750万ですけども、こっちは3年経費すれば1,000万弱という話がありますが、単年度で見れば倍予算措置されているというふうに考えると、私も当初は厳しい意見を言っていましたけれども、これについては。評価的なことを触れてはいけませんけれども、頑張っているのではないかなと思いますけれども。

藤井座長 石橋さん。

石橋委員 石橋です。これまでも皆さんからご意見があったようにリーダーさんが育て、両てんびんで大事なのが、先ほど土屋委員さんがおっしゃったみたいに場所がないということ、場所の設定というのがやはり難しくてもう地域の祭り、イベントとかでも何かハロウィンとか何か場所があったらみんな集うけれども、自分から何かというのがとてもハードルで、それはできませんというのが常だったりするので、リーダーさんだけがいてもよく何かいろんな資格は持っているけれども、例えば保育士の資格は持っているけれどもすごい負荷が高くてできませんみたいな。

ちょっと違うかもしれないですけども、単に資格だけでは使うところがなかなか發揮できないという大きな課題も出てくるかなというのと、先ほどからよく出てくる男性の参加なのですが、週末別の活動で大学のOB会の理事会とかに出ても、学校関係はやるけれども奥さんから地域の活動もとか言われるけれども、いや、そんなものは行きたくないとかと言うおじ様がたくさんいらっしゃったり、やっぱりジョギングとかでも東京マラソンとか地域のマラソンとか何か目指すところがあって、特に男性は頑張れるのかなというのと、あと筋肉は見て自己満足とか、見てもらって評価してもらおうというなかなか外から見えない部分というのは頑張りにくいかなという。

健康診断もそうなのですが、外から見てちょっと悪いところがないと、まあ、いいかなとかいう。私もそれで去年しなくて、ことし何とかやったらとかいうのがあったので、なかなかそういう動機づけというのは難しいので、それももっともっと考えてもらわないと二本柱と言っただけけれども、本当は三本柱でせつかく頑張ったみたいにしてもだめになっちゃうかなというので、今年度はもっともっと考えていただきたいと思うのですが、いろんなもっと協力者を得ないとその活動というのは難しいのかなと思っています。

以上です。

藤井座長 一般で言うソーシャルキャピタルというと、属性で言えば男性の40代から50代が一番寄与しない、発言しない。そういう属性というのの定番ですけども。地域活動に参加しないというような、もうそれがそういう属性なのです。なかなかそれ、どの協働とかそういうのも共通の課題であることは間違いないでしょうけれども。

平野委員 教えていただきたいのですけれども、新宿区役所は場の問題で言うならば、どの活動は優先的に使用、区民活動させていて、どの活動に対して減免措置を行っているのかというのは定められているのですか、条例だとか、とりあえず。

山田委員 では、山田です。かたい言い方をしてしまいますと、それぞれの施設が、設置条例があって、その条例の1条に目的規定があって、その目的を実現するための施設という位置づけになっています。そういう中である施設については、例えば事前に登録団体として登録をしていただいたとか、それからやっていただく活動内容に一定の公益性があったりとかなかったり、それから区のほうで例えば後援をしたり共催をしたりということまでクレジットが出せたりとかというようところで減免の割合ですとか。例えば全額免除ですとか半額免除ですとか、この場合には通常どおり料金をお使いいただけますとかいうことで、結構いろんな場合が出てくるわけなのです。

今回例えばこれ、この事業がダイレクトに該当しているかどうかはあれですけども、一定の公益性なり区の協働事業ということで目的があって、行政としてもそこに意味があるということをやっている場合でしたら、そういう場合には通常は会場の優先的な使用。通常の予約に先立って会場の確保ができたり、あるいは利用料金を一定の減額をすることができたりというそういう仕組みになっています。

平野委員 よろしいですか。私が聞いている事例では、何か例えば子ども食堂みたいな活動を新宿区内でやっていて、それをやるたびに何か何千円か払っていて、社協からお金の補助が来るのだけれども、そのお金がそのまま新宿区役所に吸い上げられるから、社協からもらっても意味がなくて赤字を続けているという実施団体からのお話を伺っていて、するとその設置条例だとかに多分区民の保健福祉の向上だとかマニュアルは書いてあると思うのですけれども、少し色をつけてこの活動分野が、今新宿区が伸ばしたい活動なのだ。それは多分総合政策の平井さんのお話なのかもしれないかもしれませんが、そこを定めていって、区民活動のどの分野を優先して支援を行うのか、あるいは優先度合いとしてどの活動を使用させていくのかは少し設定を変えていかないと、どうも全て有償化だけだとちょっとよくわからない。新宿区の何が有償なのか、何が無償なのかという。それとその政策的につ

なげていくのは、少し議論をするのは難しいのではないかなと思ったもので、今後のこういう協働事業を考えると、やっぱり一番目に区民からかかるコストは施設借用費用というのが現実的な話で発生して、これが継続するとすぐ出てきますので、そこは議論の中として優先課題で、区役所の中でも審議がまた同時に必要なのかなと思いました、この辺は。

藤井座長 それについては恐らく協働の一般的な基本指針のガイドラインの問題で、一般的には協働というと恐らく協働推進部でも協働の方法というのは助成、共催、委託で今お話のあった公の施設の優先使用、後援とか情報提供とかそういう幾つかの方法が基本のたしかあるのです。その運用については今一般的なちょっと、今回ここでは個別的なごっこんリーダーについてのお話をしたいなど。

先ほど話があったのが区民まつりであったりとか、小学校でやるということだったのですけれども、それをもうちょっといろんなところ。先ほど、これは土屋さんでしたか。先ほど意見交換のところ、そういう場を柔軟に使えるような、イベントみたいなのではなくても、そういうお話があったと思いますけれども。ラジオ体操であるとか、それは石橋さんですか。

それとインセンティブ設計について、関口さんがおっしゃった。あれは結構どなたの、所管のほうからもモチベーションをどうごっこんリーダーの、そういうことについては、今回はいかがでしたですか。問題意識は持っていて、関口委員からもそういう話があったのですが。

関口委員 あれ、てっきりやっているのかなとか思ったのですけれども。だから、お話だとウォーキングポイントというのを先にやっていらっしゃるということで、別にウォーキングでもいいのですけれども、せっかく協働事業でやっていらっしゃるのだからそのごっこんリーダーの、ごっこんリーダーというか、その講習会に参加したらピッとやってQRコードを読むとポイントがたまるとか、多分そういう何かアプリとかを入れているのではないかなと思うので。

伊藤委員 講習の中では難しいでしょう。多分同じ何かの活動の中で750万がひもつきになっているわけでしょう。そこに何かの物が入り込むということは、その予算を減らすということでしょう、既存の物から。

高橋委員 計画のこの話ですよ。では、私のほうからよろしいですか。

藤井座長 高橋部長、お願いします。

高橋委員 去年からモデル的に実施をしまして、ことしはちょっと拡大をされていて去年はウォーキングだけにポイントがつくようにしてあったのですけれども、ことしからはいろんなおっしゃるような健康教育的な講座に参加したらポイントがつくようになるというのはことしから始めています。それは……ないので、やはりあらかじめ登録するかどうか。

伊藤委員 ねえ、そうだよ。

高橋委員 登録して、講座に出たらピッとやれば良いようなものとか、そういうことを考えて、スタートしたばかりですけれども、こういったボランティア的な活動が非常に健康にいいので、必ずしも健康とうたっていないなくても、もともとは出かけていって、もっとお話ししたりとか楽しく過ごすということが健康につながるのという考え方がもともとあったものですから、そういう活動自体にポイントがつくようなことも入れていけたらなというのは考えています。

ただ、まだ仕組みができていないのでこれを全部使う。体にいい、間接的に健康にいいこともポイントをつけようとなると本当に仕組みが難しく、まだちょっとそこまでは行っていない。なので視野には入れて検討しています。ありがとうございます。

藤井座長 今回所管が健康部、全体として部長、ご所管、承られると思っています。

高橋委員 そうです。

藤井座長 いかがでしょうか。

高橋委員 生活習慣病予防でもあるし、フレイル予防にもなるというような全世代に影響するような健康づくりということで、介護予防とかいろんな取り組みを展開していますので、福祉部とも連携しながら今やらせていただいているところです。ですので健康ポイント事業とか、そういう必ずしも健康に関心がない人でも知らず知らずのうちに参加してしまったというふうな、そういう仕掛けがいいかなと思っています、そういう環境づくりですね。DVDをつくったり、媒体を活用した普及啓発活動、そういったことに働きかけていきたいと思います。

平野委員 制度でまた教えていただきたいのですけれども、新宿区は介護支援ボランティア制度というのは、介護予防のお金で高齢者が介護施設でボランティアをやったらポイントを給付するというのをやっておられますか、やっぺらっしゃいますか。

平井委員 あります。

平野委員 そうすると、先ほどの介護予防というお言葉を、担当の方がおっしゃって

たので、それで対象になっているのかな、どうなのかなと思って。

高橋委員 それはまだ対象になっていないのですけれども。

平野委員 では、インセンティブ交付給付金というのは。誰がカバーするか。

平井委員 今は参画でやっています。

平野委員 ですよ。

平井委員 将来的にはもうちょっと話を進めてマイナンバー制度、マイナンバーカードとかいろいろが出てきて、それで共通で全国ポイントができるような仕組みができるかもしれませんけれども、今の時点ではちょっとまだそれは。

平野委員 いや、その制度がもしあるのなら、既にその対象施設があるから、施設の話をおっしゃっていたから、その施設でボランティアをやると世田谷区あたりではそういうポイントがつくのです。そういうことが自治体で今始まっています。もしご活用されるということなら恐らくご提案は非常に現実的な話ですので、それをやるとなると研修を受けた方をそこに派遣して、社協さんあたりはよくご存じでしょうから、そういう方たちをうまく結んであげて、施設職員からすると大歓迎ですので、健康に資するボランティア活動をしていただけるのは。私どもの施設でも大歓迎です、世田谷ですが。

藤井座長 もうそろそろ意見交換25分になっておりますが、ほかに何かご意見はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、これで全てきょうの協働事業提案評価に関するヒアリング、意見交換を終了いたします。

事務局から事務連絡をお願いいたします。

事務局 では、今後のスケジュールについてご説明をさせていただきたいと思います。先ほどテーブルの上にお配りしました資料3というスケジュールの表をごらんいただけますでしょうか。

本日6月25日ということで事業課さん、実施団体さんのヒアリングをさせていただきました。本日終了後、委員の方に記載していただくための評価書の電子データのほうをメールで送らせていただきます。

それと先ほど申し上げたのですけれども、各委員が作成した評価書を7月5日金曜日までに事務局あてにデータでご送付いただけますようお願いいたします。事務局のほうでいただいたご意見を取りまとめさせていただきまして次々回、第7回7月23日実施の支援会議の中で評価書の協議のほうを行いたいというふうに考えております。そこで皆様のコ

メントを集約させていただいた事務局案を使いまして議論していきたいと思っておりますのでどうかよろしくお願いいたします。

続きまして次回、第6回の予定になります。

事務局 次回の開催ですが来月9日火曜日、時間が同じく2時から。場所が変わりまして本庁舎4階入札室のほうで行います。この協働支援会議で議題に乗せさせていただきませんが、協働事業助成の書類審査に当たっての事前協議ということで、一般事業助成と同様に申請事業に関するご意見、情報交換なんかも行っていただきまして共通認識を持っていただくための事前協議として行います。

今週の28日には申請書類を取りまとめて皆様にこの後お送りさせていただく予定であります。また、担当課のほうから提出してもらいますヒアリングシートでございます。こちらは追って7月5日にまたお送りさせていただく予定となっております。来月の9日の事前協議になります会議の際に、こちらお送りしますファイルなどを一緒にお持ちいただきますようお願いいたします。

以上です。

藤井座長 以上ですか。今お話があった7月5日にきょうの評価のデータをまた送っていただくので、それは7月5日までに事務局にデータでお送りいただく。次回の第6回協働支援会議は7月9日14時から16時まで本庁舎4階の入札室で行います。

本当にお忙しいところきょうもありがとうございました。活発なヒアリング、意見交換をすることができました。ご協力ありがとうございました。

それでは、きょうの会議をこれで閉じたいと思います。よろしいでしょうか、以上で。

一同 ありがとうございました。

— 了 —